

研究報告

スポーツトレーニング科学

—第23巻—



国立大学法人 **鹿屋体育大学**

スポーツトレーニング教育研究センター

令和4年3月



編集委員会

山本正嘉（編集委員長）^{1) 2)} 藤田英二²⁾ 高井洋平²⁾

¹⁾鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター長 ²⁾鹿屋体育大学スポーツ生命科学系

スポーツトレーニング教育研究センター沿革

- | | |
|--|---|
| <p>平成5年（1993）
7月1日 文部省から平成5年度大学改革等調査経費として「少年期からの発達段階に応じた科学的なトレーニングと効果的な指導体制の在り方に関する調査」が示達される</p> <p>平成6年（1994）
4月1日 スポーツトレーニング教育研究センターの設置準備特別委員会が発足
5月20日 スポーツトレーニング教育研究センターが設置される。センター長事務取扱に河野真副学長が就任
10月1日 西菌秀嗣助教授が体力科学講座から学内移動</p> <p>平成7年（1995）
3月1日 金高宏文講師がコーチ学講座から学内移動
4月1日 初代センター長に會田勝教授が就任。特別研修員：西村信一教諭，研究協力校として鹿児島南高等学校・鹿屋高等学校・谷山中学校・第一鹿屋中学校・横川中学校を指定</p> <p>平成9年（1997）
3月28日 スポーツトレーニング教育研究センター棟が竣工
4月1日 第2代センター長に平田文夫教授が就任。特別研修員：池畑辰也教諭，特別研究員：陳杰上海体育学院教授
5月8日 スポーツトレーニング教育研究センター棟が竣工し記念式典を挙行</p> <p>平成10年（1998）
4月1日 第3代センター長に大平充宣教授が就任。山本正嘉助教授が着任。特別研修員：佃省三教諭。研究協力校として鹿児島南高校・榎脇高校・南大隅高校、谷山中学校・桜島中学校・横川中学校を指定</p> <p>平成11年（1999）
4月1日 特別研修員：西園和昭教諭
5月18日 トレーニング環境シミュレータの竣工式</p> <p>平成12年（2000）
3月19、20日 第12回トレーニング科学研究会を開催
4月1日 特別研修員：石田尾行徳教諭</p> | <p>平成13年（2001）
4月1日 第4代センター長に西菌秀嗣教授が就任。研究協力校として鹿児島南高校・南大隅高校・谷山中学校・花岡中学校・鶴羽小学校を指定</p> <p>平成16年（2004）
4月1日 加賀谷善教講師が着任。研究協力校として鹿児島南高校・南大隅高校・花岡中学校・鹿屋東中学校・鶴羽小学校を指定</p> <p>平成18年（2006）
8月1日 第5代センター長に山本正嘉教授が就任</p> <p>平成19年（2007）
4月1日 研究協力校として鹿児島南高校・南大隅高校・大隅中学校・花岡中学校・鶴羽小学校を指定</p> <p>平成20年（2008）
4月1日 藤田英二講師が着任</p> <p>平成22年（2010）
4月1日 高井洋平助教が着任。研究協力校として鹿児島南高校・南大隅高校・帖佐中学校・大隅中学校・鶴羽小学校を指定</p> <p>平成23年（2011）
4月1日 教員組織の改組により、これまでのセンター所属教員はスポーツ生命科学系に所属することとなり、その上で山本がセンター長、西菌、藤田、高井がセンター兼務担当教員となる</p> <p>平成25年（2013）
4月1日 研究協力校として鹿児島南高校・南大隅高校・帖佐中学校・花岡学園（花岡中学校・花岡小学校）を指定</p> <p>平成28年（2016）
4月1日 研究協力校として鹿児島南高校・南大隅高校・重富中学校・吾平中学校・花岡小学校を指定</p> <p>現在（平成28年度～令和3年度）
山本教授（センター長）、藤田准教授、高井准教授がセンター兼務担当教員として業務を行う</p> |
|--|---|

表紙写真：ヨット選手が競技中に行うフリック動作の能力を高めるためのシミュレーショントレーニング（本文の44～45頁を参照）

編集後記

今年度、鹿屋体育大学は創立40周年を迎えました。「四十にして惑わず」という孔子の言葉があります。トレセンも体育・スポーツ界において、今後一層、中堅的な役割をしっかりと果たしていきたいと決意を新たにしています。

新型コロナウイルスの影響により、本学の学生たちもまる2年間、活動の制限を受けてきました。しかしそんな中でも各自が工夫と努力を重ね、自身の課題を克服して競技力を向上させました。このような取り組みを、事例報告という形でいくつか掲載しました。「将来に向けてやりたいこと・やらねばならないことがたくさんあるので、コロナのせいにして立ち止まってなどいられません」という学生たちの言葉を聞いて、嬉しく思いました。

最後に、私はこれまで16年間にわたり本センターの長を務めてきましたが、今期で交代します。今後ともトレセンへのご支援・ご指導を引き続きよろしくお願いいたします。

(山本正嘉 記)

令和4年3月31日 印刷

令和4年3月31日 発行

発行者 鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター

発行所 鹿屋体育大学

鹿屋市白水町1番地 (〒891-2393)

Tel 0994-46-4922

印刷所 (株)朝日印刷

鹿児島市上荒田町55-1 (〒890-0055)

Tel 099-251-2191



スポーツトレーニング科学 第23巻

目 次

スポーツトレーニング教育研究センター沿革

I. 研究論文・事例報告

- 大学サッカー選手における漸増負荷試験から得られるMaximal Aerobic SpeedとVmaxとの関係
森永 浩嗣, 高井 洋平…………… 1
- 光学式3次元人体形状計測装置を用いた体型変化の視覚化ならびに他者との体型比較
省略表題：3Dボディースキャナーによる体型変化の視覚化
升方 美優, 藤田 英二…………… 7
- インターナルインピンジメント症状による疼痛の除去を目的とした元野球選手の取り組み事例
石井 翔平, 山本 正嘉…………… 13
- 大学女子バスケットボール選手が練習日誌の効果的な活用法を探るための取り組み事例
～新型コロナウイルスによる活動制限下での机上トレーニングの工夫～
三坂 彩友, 木葉 一総, 山本 正嘉…………… 23
- 1型糖尿病を有する大学自転車競技者が自身に合った血糖値コントロール法を身につけるための取り組み
田仲 駿太, 山口 大貴, 山本 正嘉…………… 33

II 報 告

- 体育大学生が自身で測定・評価・処方を行うアスリートドックシステムの可能性
～競技力向上と卒業研究とを一体化して相乗効果を図る試み～
山本 正嘉, 山口 大貴, 笹子 悠歩…………… 41
- 令和3年度アスリートドックプロジェクトによる成果の公表
山本 正嘉, 藤田 英二, 高井 洋平…………… 47
- 小学生柔道選手を対象とした研究
藤田 英二…………… 49
- 目標設定を設定した体力トレーニング効果に関する研究
神園 章…………… 51
- 小学生のバランスのとれた体力向上の実践
－5分間の朝の運動を活用した取組－
國師 哲也…………… 61
- 中学生のパフォーマンス力を向上させる取組Ⅱ
～保健体育授業における補強運動が及ぼす走力への影響について～
金澤 宏弥…………… 81
- 高校生期における女子柔道選手の補強トレーニングの研究
鮫島将太郎…………… 93
- 高校生自転車競技選手を対象とした効果的なトレーニングの検討
金野 亮太…………… 103
- 本学における心理サポート体制について
幾留 沙智, 竹添 美咲, 日野 正崇, 石川 義活…………… 107
- 令和3年度スポーツリフレッシュセミナー…………… 109
- 2021年度のトレセン利用状況…………… 111
- 「研究論文」に関する寄稿規定…………… 113
- トレセンニューズレター (26号) …………… 114
- 編集後記